

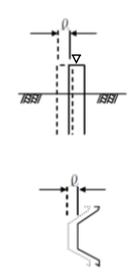
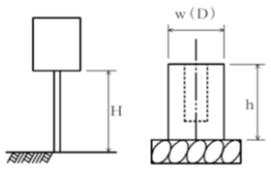
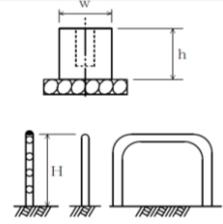
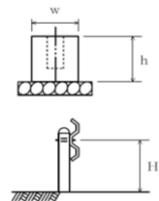
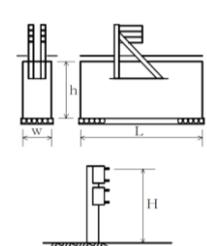
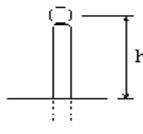
第1編共通編

出来形検査基準規格値(単位mm)

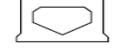
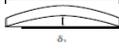
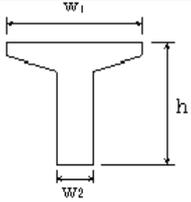
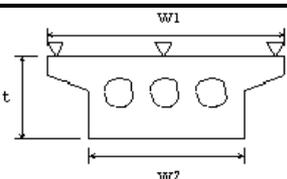
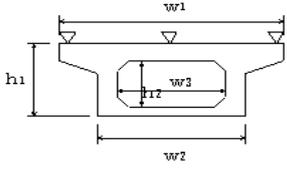
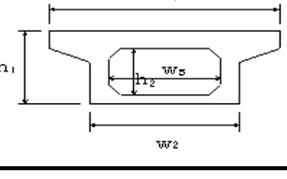
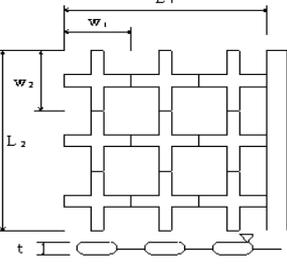
番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第2章 第3節 河川土工・砂防土工	2-3-2 掘削工	基準高	▽ ±50	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 基準高は掘削部の両端及び中心の3点で測定しその平均値とする。		
		法長	$\ell < 5\text{ m}$ -200			
		$\ell \geq 5\text{ m}$	法長-4%			
		延長	L -200			
2-3-3 盛土工	基準高	▽ -50	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 基準高は、各法肩で測定。			
		法長				$\ell < 5\text{ m}$ -100
		$\ell \geq 5\text{ m}$				法長-2%
		幅				$w_1, w_2$ -100
		延長				L -200
2-3-4 盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高	▽ -50	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 基準高は、各法肩で測定。			
		厚さ				t +0~-50
		控え長さ				設計値以上
2-3-5 法面整形工(盛土部)	厚さ	t ※-30	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 厚さは、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。			
2-3-6 堤防天端工	厚さ	t < 15cm -25	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 厚さは、1000㎡毎に道路中心線で1箇所以上測定。			
		t ≥ 15cm -50				
		幅				w -100
第4章 第4節 道路土工	2-4-2 掘削工	基準高	▽ ±50	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。		
		法長	$\ell < 5\text{ m}$ -200			
		$\ell \geq 5\text{ m}$	法長-4%			
		幅	w -100			
		延長	L -200			
2-4-3 路体盛土工 2-4-4 路床盛土工	基準高	▽ ±50	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。			
		法長				$\ell < 5\text{ m}$ -100
		$\ell \geq 5\text{ m}$				法長-2%
		幅				$w_1, w_2$ -100
		延長				L -200
2-4-5 法面整形工(盛土部)	厚さ	t ※-30	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 厚さは、法の中央で測定。 ※土羽打ちがある場合に適用。			
第3章 第7節 無筋・鉄筋コンクリート	3-7-4 組立て	平均間隔	d ±φ	図面の寸法表示箇所、任意の部分で測定。 $d = D / (n - 1)$ D: n本間の長さ n: 10本程度とする φ: 鉄筋径  最小かぶり、コンクリート標準示方書(設計編13.2)参照。ただし、道路橋仕方書(3コンクリート橋編6.6)による。		・重要構造物かつ主鉄筋について適用する。 ・橋梁コンクリート床版桁(PC橋含む)の鉄筋については、第3編1-18-2 床版・横組工を適用する。  ・新設コンクリート構造物(橋梁上部・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート(工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外))の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状況及びかぶり測定要領(案)」を適用する。(品質管理項目)
		かぶり	t かつ最小かぶり以上			

第3編土木工事共通編

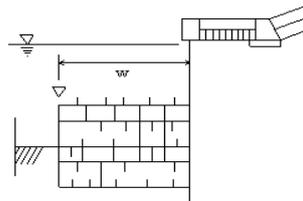
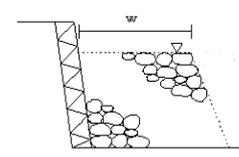
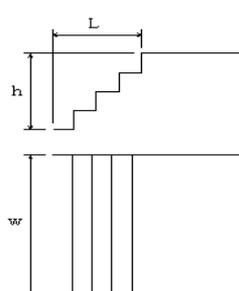
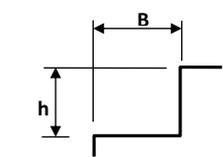
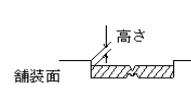
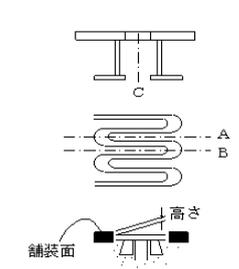
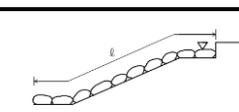
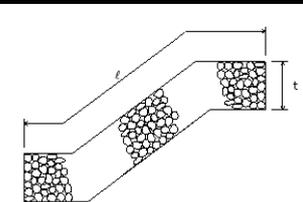
出来形検査基準規格値(単位mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第1章 一般施工 第3節 共通の工種	1-3-4 矢板工(指定仮設・任意仮設は除く) (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基準高	±50	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
		根入れ長	設計値以上				
	1-3-5 縁石工 (縁石・アスカーブ)	延長 L	-200	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
		1-3-6 小型標識工	設置高さ H	設計値以上	基礎10基につき1箇所以上測定。		
	基礎幅 w(D)	-30					
	1-3-7 防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 w	-30	延長100mにつき1箇所以上測定。 単独基礎の場合は、20基につき1箇所以上測定。		※なお、補修工事は除く。
			高さ h	-30			
		パイプ取付高 H	+30 -20				
		パイプ根入れ長	+20 -30				
	1-3-8 路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30	延長100mにつき1箇所以上測定。 単独基礎の場合は、20基につき1箇所以上測定。		※なお、補修工事は除く。
高さ h			-30				
ビーム取付高 H		+30 -20	延長100mにつき1箇所以上測定。				
パイプ根入れ長		+20 -30					
路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	-30	端基礎10基につき1箇所以上測定。 中間基礎は、ガードレール基礎を適用する。		※なお、補修工事は除く。	
		高さ h	-30				
	延長 L	-100	延長100mにつき1箇所以上測定。				
	ケーブル取付高 H	+30 -20					
パイプ根入れ長	+20 -30						
1-3-9 区画線工	厚さ t (熔融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。				
1-3-10 道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	幅 w	設計値以上	50本につき1本以上測定。				
	高さ h	±30					
1-3-11 コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋塗装・防食便覧II-74「表-II.5.5 各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	塗料系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前の搬入量(充缶数)と塗付作業終了時の使用量(空缶数)とを確認し、各々必要量以上であることを確認する。1ロットの大きさは500㎡とする。				

出来形検査基準規格値(単位mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第1章 一般施工 第3節 共通の工種	1-3-12 プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁長 L (m)	±L/1000	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表にかえることができる。 JIS製品以外はJIS製品に準じる。	断面図  側面図  平面図 	規格値のLに代入する数値はm単位の数値
		断面の外形寸法	±5			
		橋桁のそり δ <sub>1</sub>	±8			
		横方向の曲がり δ	±10			
	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁長 L (m)	±10… L ≤ 10m ±L/1000… L > 10m	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表にかえることができる。 JIS製品以外はJIS製品に準じる。	断面図  側面図  平面図 	規格値のLに代入する数値はm単位の数値
		断面の外形寸法	±5			
		橋桁のそり δ <sub>1</sub>	±8			
		横方向の曲がり δ	±10			
	1-3-13 ポストテンション桁製作工	幅 (上) w <sub>1</sub>	+10 -5	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスング後に測定。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表にかえることができる。 ℓ: 支間長		規格値のℓに代入する数値はm単位の数値
		幅 (下) w <sub>2</sub>	±5			
		高さ h	+10 -5			
		桁長 ℓ	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ±(ℓ-5)			
支間長		かつ -30mm以内				
プレキャストセグメント製作工(購入工)	桁長 ℓ	-	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。			
	断面の外形寸法	-				
1-3-14 プレキャストセグメント主桁組立工	桁長 ℓ	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ±(ℓ-5)	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスング後に測定。桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所。 ℓ: 支間長		規格値のℓに代入する数値はm単位の数値	
	支間長	かつ -30mm以内				
	横方向最大タワミ	0.8ℓ				
1-3-15 PCホロースラブ製作工 RC場所打ホロースラブ製作工 PC版桁製作工	基準高 ▽	±20	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編1-18-2 床版・横組工に準ずる。 ℓ: 桁長		規格値のℓに代入する数値はm単位の数値	
	幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-5 ~ +30				
	厚さ t	-10 ~ +20				
	桁長 ℓ	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ±(ℓ-5)				
1-3-16 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工	基準高 ▽	±20	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編1-18-2 床版・横組工に準ずる。 ℓ: 桁長		規格値のℓに代入する数値はm単位の数値	
	幅 (上) w <sub>1</sub>	-5 ~ +30				
	幅 (下) w <sub>2</sub>	-5 ~ +30				
	内空幅 w <sub>3</sub>	±5				
	高さ h <sub>1</sub>	+10 -5				
	内空高さ h <sub>2</sub>	+10 -5				
	桁長 ℓ	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ±(ℓ-5)				
PC押し箱桁製作工	幅 (上) w <sub>1</sub>	-5 ~ +30	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編1-18-2 床版・横組工に準ずる。 ℓ: 桁長		規格値のℓに代入する数値はm単位の数値	
	幅 (下) w <sub>2</sub>	-5 ~ +30				
	内空幅 w <sub>3</sub>	±5				
	高さ h <sub>1</sub>	+10 -5				
	内空高さ h <sub>2</sub>	+10 -5				
	桁長 ℓ	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ±(ℓ-5)				
1-3-17 根固めブロック工	層積	標準高 ▽	±100	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
		乱積	±t/2			
	厚さ t	-20	幅、厚さは100個につき1箇所測定。			
	幅層積 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-20				
	乱積	-t/2				
	延長層積 L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	-200	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
	乱積	-t/2				

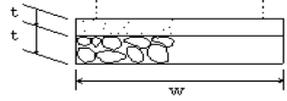
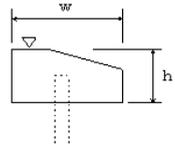
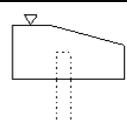
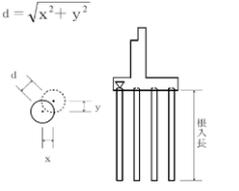
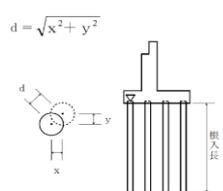
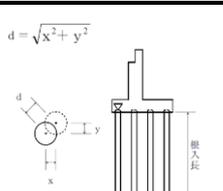
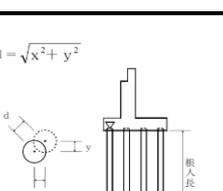
出来形検査基準規格値(単位mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要			
第1章 一般施工 第3節 共通の工種	1-3-18 沈床工	基準高 $\nabla$	$\pm 150$	施工延長100mにつき1箇所以上測定					
		幅 w	$\pm 300$						
		延長 L	$-200$						
	1-3-19 捨石工		基準高 $\nabla$	$-100$	施工延長100mにつき1箇所以上測定				
			幅 w	$-100$					
			延長 L	$-200$					
	1-3-22 階段工		幅 w	$-30$	10段につき1箇所以上測定。				
			高さ h	$-30$					
			長さ L	$-30$					
			段数	$\pm 0$ 段					
		けあげ高 h			$\pm 3$	10段につき1箇所以上測定。		立体横断施設に適用 コンクリート打放しに適用 その他階段に適用 立体横断施設に適用 コンクリート打放しに適用 その他階段に適用	
					$\pm 10$				
					$\pm 30$				
				踏み幅 B	$\pm 3$				
					$\pm 10$				
				$\pm 30$					
1-3-24 伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ	舗装面に対し	$-2\sim 0$	両端及び中央部付近で任意の部分測定。					
							表面の凹凸	3	
							仕上げ高さ	舗装面に対し $-2\sim 0$	
	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイント)	高さ	据付け高さ	$\pm 3$	高さについては車道端部、中央部のうち、任意の部分測定。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部のうち、任意の部分測定。				
			車線方向各点誤差の相対差	3					
			表面の凹凸	3					
			歯型板面の歯咬み合い部の高低差	2					
			縦方向間隔	$\pm 2$					
			横方向間隔	$\pm 5$					
			仕上げ高さ	舗装面に対し $-2\sim 0$					
1-3-26 多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	基準高 $\nabla$	法長 $\ell$	$\pm 500$	施工延長100mにつき1箇所以上測定					
							延長 L	$-200$	
	多自然型護岸工 (かごマット)	法長 $\ell$	厚さ t	$-100$	施工延長100mにつき1箇所以上測定				
								延長 L	$-200$

出来形検査基準規格値(単位mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第1章 一般施工 第3節 共通の工種	1-3-27 羽口工 (じゃかご)	法長 $\ell$	$\ell < 3m$ -50 $\ell \geq 3m$ -100	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
		厚さ t	-50			
	羽口工 (ふとんかご、かご枠)	高さ h	-100	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
		延長 L1, L2	-200	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
	1-3-28 プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 ※印は、現場打部分のある場合。		
		※ 幅 w	-50			
		※ 高さ h	-30			
		延長 L	-200			
	1-3-29 側溝工 (プレキャストU型側溝) (コルゲートフリューム) (L型側溝工) (L型側溝工) (L0型側溝工) (自由勾配側溝) (管(函)渠型側溝工) (管渠) 排水構造物修繕工 (プレキャストU型側溝・管) (函)渠)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
延長 L		-200				
場所打水路工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
	厚さ t1, t2	-20				
	幅 w	-30				
	高さ h1, h2	-30				
	延長 L	-200				
暗渠工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 なお、製品使用の場合の寸法は、規格証明書等による。			
	幅 w1, w2	-50				
	深さ h	-30				
	延長 L	-200				
1-3-30 集水樹工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	10箇所につき1箇所以上測定。 ※印は、現場打部分のある場合。			
	※ 厚さ t1 ~ t5	-20				
	※ 幅 w1, w2	-30				
	※ 高さ h1, h2	-30				

出来形検査基準規格値(単位mm)

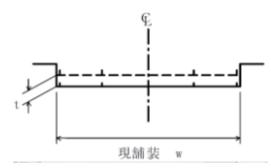
番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第1章 一般施工	第3節 共通の工種	1-3-31 現場塗装工	塗膜厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定する。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は5点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		
	第4節 基礎工	1-4-1 一般事項 (床掘工)	基準高	▽ ±50	施工延長100mにつき1箇所、それ以下の場合は、1施工箇所につき1箇所以上測定。		
幅			-100				
一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)			厚さ	t 設計値以上	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
1-4-3 基礎工(護岸) (現場打) 笠コンクリート工		基準高	▽ ±30	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
		幅	w -30				
		高さ	h -30				
基礎工(護岸) (プレキャスト) 笠コンクリート工 (プレキャスト)		延長	L -200	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
	延長	L -200					
1-4-4 既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基準高	▽ ±50	5本につき1箇所以上測定。				
	根入長	設計値以上					
既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	偏心量	d D/4以内かつ100以内	5本につき1箇所以上測定。				
	傾斜	1/100以内					
	杭径	設計径以上					
	根入長	設計値以上					
1-4-5 場所打杭工	基準高	▽ ±50	5本につき1箇所以上測定。				
	根入長	設計値以上					
	偏心量	d 100以内					
	傾斜	1/100以内					
	杭径	(設計径(公称径)-30)以上					
1-4-6 深礎工	基準高	▽ ±50	5本につき1箇所以上測定。				
	根入長	設計値以上					
	偏心量	d 150以内					
	傾斜	1/50以内					

出来形検査基準規格値(単位mm)

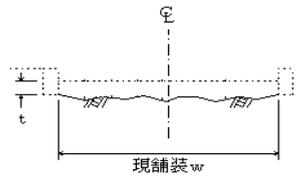
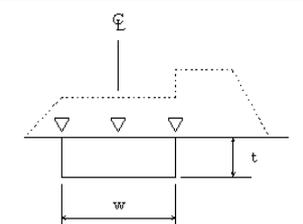
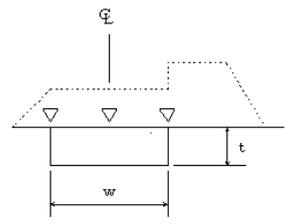
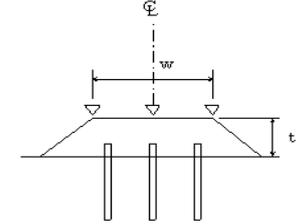
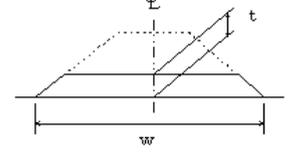
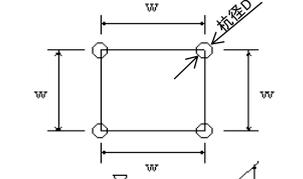
番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第1章 一般施工	第4節 基礎工	1-4-7	オープンケーソン基礎工	基準高 $\nabla$ $\pm 100$ ケーソンの長さ $\ell$ $-50$ ケーソンの幅 $w$ $-50$ ケーソンの高さ $h$ $-100$ ケーソンの壁厚 $t$ $-20$ 偏心量 $d$ $300$ 以内	2基につき1箇所以上測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
		1-4-8	ニューマチックケーソン基礎工	基準高 $\nabla$ $\pm 100$ ケーソンの長さ $\ell$ $-50$ ケーソンの幅 $w$ $-50$ ケーソンの高さ $h$ $-100$ ケーソンの壁厚 $t$ $-20$ 偏心量 $d$ $300$ 以内	2基につき1箇所以上測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
		1-4-9	鋼管矢板基礎工	基準高 $\nabla$ $\pm 100$ 根入長 設計値以上 偏心量 $d$ $300$ 以内	5本につき1箇所以上測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
第5節 石・ブロック積(張)工	1-5-3 1-5-4 1-5-5	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り) 緑化ブロック工 石積(張)工	基準高 $\nabla$ $\pm 50$ 法長 $\ell < 3m$ $-50$ $\ell \geq 3m$ $-100$ 厚さ(ブロック積・張)、石積(張) $t$ $-50$ 厚さ(裏込) $t_2$ $-50$ 延長 $L$ $-200$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
		コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	基準高 $\nabla$ $\pm 50$ 法長 $\ell$ $-100$ 延長 $L_1, L_2$ $-200$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
		コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基準高 $\nabla$ $\pm 50$ 幅 $w$ $-100$ 延長 $L$ $-200$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			

第3編土木工事共通編

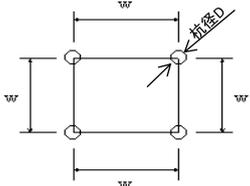
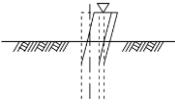
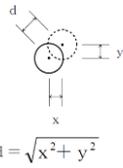
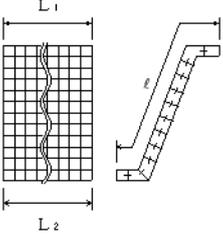
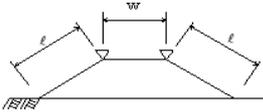
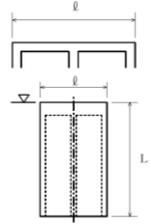
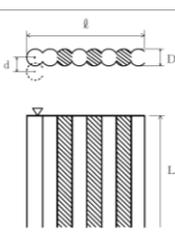
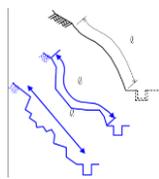
出来形検査基準規格値(単位:mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
			個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> )					
第1章 一般施工 第6節 一般舗装工	1-6-7 アスファルト舗装工	基準高▽	±50	—	基準高は延長100mに1箇所を割とし、道路中心線および端部で測定。 幅は、延長200mに1箇所を割で測定。 厚さは各車線右記により測定。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。  コア採取について ①橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 ②維持工事及び1車線林道においては、平坦性の項目を省略することが出来る。 ③厚さ管理基準 1000㎡未満 N=1個以上 1000㎡毎に N=1個以上 (例 1001㎡は、2箇所を測定) ④厚さの確認 写真及び管理データにかえることができる。	アスファルト舗装工 半たわみ性舗装工 排水性舗装工 コンクリート舗装工 コンクリート版工 (転圧コンクリート版工)		
		厚さ	-45	-15					
	幅	-50	—						
	1-6-8 半たわみ性舗装工	厚さ	-30	-8					
	1-6-9 排水性舗装工	厚さ	-30	-8					
	1-6-11 ゲースアスファルト舗装工	厚さ	-30	-8					
	1-6-12 コンクリート舗装工	厚さ	-20	-5					
	1-6-13 薄層カラー舗装工	厚さ	-12	-3					
	1-6-14 ブロック舗装工	厚さ	-9	-2					
	1-6-10 透水性舗装工(路盤工)	基準高▽	±50	—				基準高は片側延長100m毎に1箇所を割で測定。 厚さは、片側毎右記により測定。 幅は、片側延長200m毎に1箇所測定。	※歩道舗装に適用する。
	1-6-10 透水性舗装工(表層工)	厚さ	-9	-3					
	1-6-15 路面切削工	厚さ t	-7	-2				厚さは1000㎡に1箇所以上、現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。 幅は、延長200mにつき1箇所以上測定。 断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。 測定方法は、自動横断測定法によることが出来る。	
	1-6-16 舗装打換え工	幅 w	-50	—					
	1-6-16 舗装打換え工	延長 L	-100	—					
1-6-16 舗装打換え工	工厚さ t	該当工種	—						
1-6-16 舗装打換え工	舗幅 w	-25	—						
1-6-16 舗装打換え工	舗延長 L	-100	—						
1-6-16 舗装打換え工	工厚さ t	該当工種	—						

出来形検査基準規格値(単位:mm)

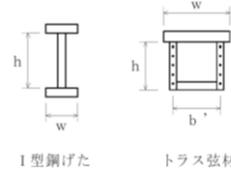
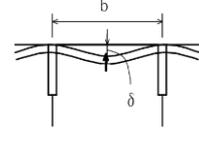
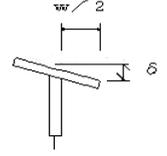
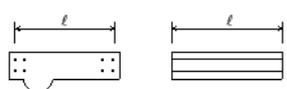
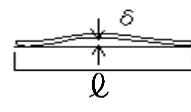
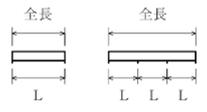
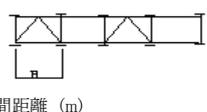
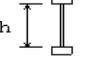
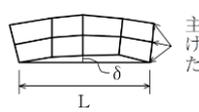
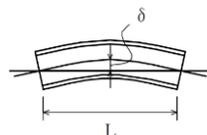
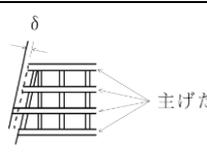
番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第1章 第6節 一般施工	1-6-17 オーバーレイ工	厚さ t	-9	幅は、延長200mに1箇所を割とし、厚さは下記により測定。 ①厚さ管理基準 1000㎡未満 N=1箇所以上 1000㎡毎に N=1箇所以上 (例 1001㎡は、2箇所を測定) ②厚さの確認 写真及び管理データにかえることができる。		
		幅 w	-25			
		延長 L	-100			
		平坦性	3mプロファイルメーター標準偏差(σ) 2.4mm以下 直読式(足付き)標準偏差(σ) 1.75mm以下			維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
第7節 地盤改良工	1-7-2 路床安定処理工	基準高	±50	延長200mにつき1箇所以上測定。 基準高及び厚さは、道路中心線及び端部で測定。		
		施工厚さ t	-50			
		幅 w	-100			
		延長 L	-200			
	1-7-3 置換工	基準高	±50	施工延長200mにつき1箇所以上測定。 基準高及び厚さは、中心線及び端部で測定。		
		置換厚さ t	-50			
		幅 w	-100			
		延長 L	-200			
	1-7-5 パイルネット工	基準高	±50	施工延長200mにつき1箇所以上測定。 厚さは中心線及び端部で掘り起こして測定。 杭については、該当杭の項目に準ずる。		
		厚さ t	-50			
		幅 w	-100			
		延長 L	-200			
	1-7-6 サンドマット工	施工厚さ t	-50	施工延長200mにつき1箇所以上測定。 厚さは中心線及び端部で掘り起こして測定。		
		幅 w	-100			
		延長 L	-200			
	1-7-7 バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	位置・間隔 w	±100	100本につき1箇所以上測定。 杭径は1箇所につき2本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。		
	1-7-8 締固め改良工 (サンドコンパクションパイル工)	杭径 D	設計値以上			
		打込長さ h	設計値以上	10本につき1箇所以上測定。 10本につき1箇所以上測定。 計器管理にかえることができる。		※余長は適用除外
		サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの砂投入量	-			

出来形検査基準規格値(単位:mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第1章 一般施工	第3節 共通の工種	1-7-9 固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基準高 $\nabla$ -50 位置・間隔 $w$ D/4以内 杭径 $D$ 設計値以上 深 度 $\ell$ 設計値以上	100本につき1箇所以上測定。 杭径は1箇所につき2本測定。  10本につき1箇所以上測定。			
第10節 仮設工	1-10-5 土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基準高 $\nabla$ $\pm 100$ 根入長 設計値以上	基準高は施工延長100mにつき1箇所以上測定。 (任意仮設は除く)				
		削孔深さ $\ell$ 設計深さ以上 配置誤差 $d$ 100	10本につき1箇所以上測定。 (任意仮設は除く)	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$			
	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法長 $\ell$ -100	施工延長100mにつき1箇所以上測定。				
		延長 $L_1, L_2$ -200					
	土留・仮締切工 (締切盛土)	基準高 $\nabla$ -50 天端幅 $w$ -100 法長 $\ell$ -100	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 (任意仮設は除く)				
土留・仮締切工 (中詰盛土)		基準高 $\nabla$ -50	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 (任意仮設は除く)				
1-10-9 地中連続壁工(壁式)		基準高 $\nabla$ $\pm 50$ 連壁の長さ $\ell$ -50 変位 300 壁体長 $L$ -200	施工延長100mにつき1箇所以上測定。				
		1-10-10 地中連続壁工(柱列式)	基準高 $\nabla$ $\pm 50$ 連壁の長さ $\ell$ -50 変位 $d$ D/4以内 壁体長 $L$ -200		施工延長100mにつき1箇所以上測定。		D: 杭径
		1-10-22 法面吹付工	法長 $\ell$ $\ell \leq 3m$ -50 $\ell \geq 3m$ -100		施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
			厚さ $t$ $t < 5cm$ -10 $t \geq 5cm$ -20 但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上			施工面積500㎡につき1箇所以上測定。ただし、面積500㎡以下200㎡以上の場合は、1箇所以上測定、200㎡未満は管理データによることができる。 □100mm検査孔により測定し4角の平均とする。	
		延長 $L$ -200	施工延長100mにつき1箇所以上測定。				



(新) 出来形検査基準規格値(単位:mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要	
				鋼桁等	トラス・アーチ等			
第1章 一般施工 第12節 工場製作工 共通	1-12-3 桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	部材精度	主桁・主構 支点及び支間中央付近で、任意の部分を測定。	±2……	主桁・主構	 <p>1型鋼げた トラス弦材</p>	規格値のwに代入する数値はm単位の数値	
			フランジ幅w(m)	$w \leq 0.5$				
			腹板高 h(m)	$0.5 < w \leq 1.0$	床組など 部材の中央付近で、任意の部材を測定。			
			腹板間隔 b'(m)	$1.0 < w \leq 2.0$				
				$\pm(3+w/2)$				
				$2.0 < w$	なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表にかえることができる。			
		板の平面度 δ (mm)	鋼桁及びトラス等の部材の腹板	h/250	主桁 支点及び支間中央付近で、任意の部材を測定。	h:腹板高(mm) b:腹板又はリブの間隔(mm) w:フランジ幅(mm)		
			箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b/150				
		フランジの直角度 δ (mm)		w/200				
		部材長 ℓ (m)	鋼桁	±3…… ±4……	ℓ ≤ 10 ℓ > 10	原則として仮組立をしない部材について、主要部材のうち、任意の部分測定。		規格値の●に代入する数値はm単位の数値
			トラス、アーチなど	±2…… ±3……	ℓ ≤ 10 ℓ > 10			
		圧縮材の曲がり δ (mm)		ℓ/1000	-	主要部材のうち、任意の部分測定 ●:部材長(mm)		
仮組立精度	全長、支間長 L(m)		±(10+L/10)	主桁、主構のうち、任意の部分測定。		規格値のLに代入する数値はm単位の数値		
	主桁、主構の中心間距離 B (m)		±4 ……B ≤ 2 ±(3+B/2) ……B > 2	支点及び支間中央付近で、任意の部分測定。	 <p>B: 中心間距離 (m)</p>	規格値のBに代入する数値はm単位の数値		
	主構の組立高さ h (m)		±5 ……h ≤ 5 ±(2.5+h/2) ……h > 5	両端部及び中心部で任意の部分測定。		規格値のhに代入する数値はm単位の数値		
	主桁、主構の通り δ (mm)		5+L/5…… 25 ……	L ≤ 100 L > 100	最も外側の主桁又は主構について、支点及び支間中央の1点を測定。 L: 側線上 (m)	 <p>主げた</p>	規格値のLに代入する数値はm単位の数値	
主桁、主構のそり δ (mm)			-5~+5 …… L ≤ 20 -5~+10 …… 20 < L ≤ 40 -5~+15 …… 40 < L ≤ 80 -5~+25 …… 80 < L ≤ 200	主桁について、10~12m間隔で、任意の部分測定。 L: 主桁の支間長 (m)	主構の格点で、任意の部分測定。 L: 主構の支間長 (m)		規格値のLに代入する数値はm単位の数値	
	主桁、主構の橋端における出入差 δ (mm)		設計値 ±10	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。	 <p>主げた</p>			

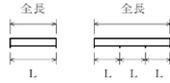
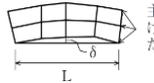
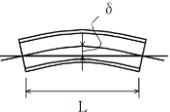
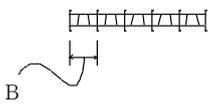
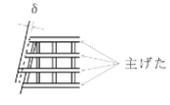
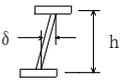
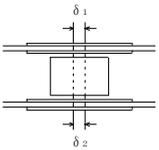
(新) 出来形検査基準規格値(単位:mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要		
				鋼桁等	トラス・アーチ等				
第1章 一般施工 第12節 工場製作工 共通	1-12-3 桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	仮組立精度 主桁、主構の鉛直度 $\delta$ (mm)	$3+h/1,000$	主桁の両端部で、任意の部分測定。 h:主桁の高さ(mm)	トラス・アーチ等 支点及び支間中央付近で、任意の部分測定。 h:主構の高さ(mm)				
		現場継手部のすき間 $\delta_1, \delta_2$ (mm)	設計値 $\pm 5$	主桁、主構の継手で、任意の部分測定。 設計値が5mm以下の場合、マイナス値については設計値以上とする。			$\delta_1, \delta_2$ のうち大きいもの		
	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	部材精度 フランジ幅 w 腹板高 h 腹板間隔 b' (m)	$w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots$	$w \leq 0.5$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2)$ $\dots 2.0 < w$	主桁・主構 支点及び支間中央付近で、任意の部分測定。 床組など部材の中央付近で、任意の部分測定。			規格値のwに代入する数値はm単位の数値	
			板の平面度 $\delta$ 箱桁等のフランジ鋼床版のデッキプレート (mm)						$h/250$
		フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$w/200$						
		鋼桁 部材長 ② (m)	$\pm 3 \dots$ $\pm 4 \dots$	$\ell \leq 10$ $\ell > 10$			主要部材のうち、任意の部分測定。		規格値の②に代入する数値はm単位の数値
		桁製作工 (鋼製ダム製作工(仮組立時))	柱の水平度	10			図面の寸法表示箇所にて任意の部分測定。		
	堤長 L		$\pm 30$						
	堤長 $\ell$		$\pm 10$						
	堤幅 W		$\pm 30$						
堤幅 w	$\pm 10$								
高さ H	$\pm 10$								
ベースプレートの高さ	$\pm 10$								
本体の傾き	$\pm H/500$								
1-12-4	検査路製作工	部材 部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots$ $\pm 4 \dots$	$\ell \leq 10$ $\ell > 10$	図面の寸法表示箇所にて、任意の部分測定。		規格値の②に代入する数値はm単位の数値		

(新) 出来形検査基準規格値(単位:mm)

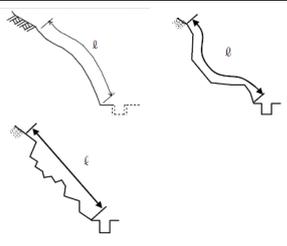
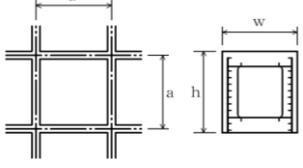
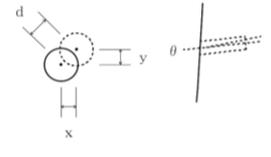
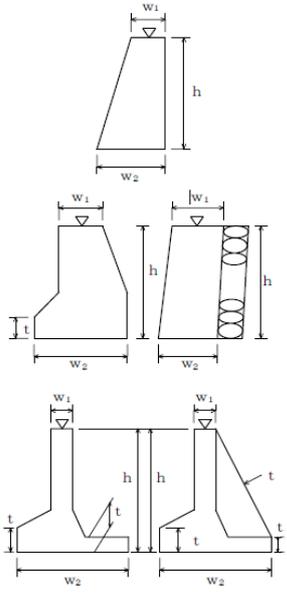
番号	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要
				鋼桁等	トラス・アーチ等		
第1章 一般施工 第12節 工場製作工 共通	1-12-5	鋼製伸縮継手製作工	部材 部材長 $w$ (m)	0 ~ +30	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。		
			仮組立時 組合せる伸縮装置との高さの差 $\delta_1$ (mm)	設計値 $\pm 4$	両端及び中央部付近で、任意の部分を測定。		
			仮組立時 フィンガーの食い違い $\delta_2$ (mm)	$\pm 2$		(実測値) $\delta_2$	
	1-12-6	落橋防止装置製作工	部材 部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \dots$ $\pm 4 \dots$ $l \leq 10$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。		規格値の $l$ に代入する数値はm単位の数値
	1-12-7	橋梁用防護柵製作工	部材 部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \dots$ $\pm 4 \dots$ $l \leq 10$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。		規格値の $l$ に代入する数値はm単位の数値
	1-12-8	アンカーフレーム製作工	仮組立時 上面水平度 $\delta_1$ (mm)	$b/500$	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。		
		仮組立時 鉛直度 $\delta_2$ (mm)	$h/500$				
		仮組立時 高さ $h$ (mm)	$\pm 5$				
	1-12-9	プレビーム用桁製作工	部材 フランジ幅 $w$ (m)	$\pm 2 \dots$ $w \leq 0.5$	各支点および各支間中央付近で、任意の部分を測定。		規格値の $w$ に代入する数値はm単位の数値
		部材 腹板高 $h$ (m)	$\pm 3 \dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \dots$ $2.0 < w$				
		部材 フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$w/200$				
	部材 部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \dots$ $\pm 4 \dots$ $l \leq 10$ $l > 10$					
		仮組立時 主桁のそり	$-5 \sim +5 \dots$ $L \leq 20$ $-5 \sim +10 \dots$ $20 < L \leq 40$	各支点および各支間中央付近で任意の部分測定。		規格値の $L$ に代入する数値はm単位の数値	
1-12-10	鋼製排水管製作工	部材 部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \dots$ $\pm 4 \dots$ $l \leq 10$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。		規格値の $l$ に代入する数値はm単位の数値	
1-12-11	工場塗装工	塗膜厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	外面塗装では、無機シリケートペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは、500㎡とする。 1ロット当たり測定数は5点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。			

(新) 出来形検査基準規格値(単位:mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要	
				鋼桁等	トラス・アーチ等			
第1章 第13節 一般施工 橋梁架設工	1-13 架設工(鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン架設)	全長・支間L(m)	$\pm(20+L/5)$	図面の寸法表示箇所にて任意の部分を測定。 L:主桁・主構の支間長(m)				
		通り $\delta$ (mm)	$\pm(10+2L/5)$	主桁、主構で任意の部分を測定。 L:主桁・主構の支間長(m)				
		そり $\delta$ (mm)	$\pm(25+L/2)$	主桁、主構で任意の部分を測定。 L:主桁・主構の支間長(m)				
		※主桁、主構の中心間距離B(m)	$\pm 4 \dots$ $B \leq 2$ $\pm(3+B/2) \dots$ $B > 2$	任意の部分を測定。				
		※主桁の橋端における出入差 $\delta$ (mm)	設計値 $\pm 10$	任意の部分を測定。				
		※主桁、主構の鉛直度 $\delta$ (mm)	$3+h/1,000$	h:主桁・主構の高さ(mm)				
		※現場継手部のすき間 $\delta 1, \delta 2$ (mm)	設計値 $\pm 5$	主桁、主構の継手で、任意の部分を測定。 設計値が5mm以下の場合、マイナス側については設計値以上とする。				
			※は仮組立検査を実施しない工事に適用。					
		架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設) 架設支保工 (固定) (移動) 架設桁架設 (片持架設) (押出し架設)	全長・支間	—	任意の部分を測定。			
			桁の中心間距離	—	一連毎の両端及び支間中央について各上下間で任意の部分を測定。			
		そり	—	主桁について、任意の部分を測定。				

第3編土木工事共通編

(新) 出来形検査基準規格値(単位:mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第1章 第4節 一般施工 共通	1-14-2 植生工 (種子散布工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生シート工) (植生マット工) (植生筋工) (人工張芝工) (植生穴工)	切土法	$\phi \leq 5\text{m}$	-200	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
		長 $\phi$	$\phi \geq 5\text{m}$	法長の-4%			
		盛土法	$\phi \leq 5\text{m}$	-100			
		長 $\phi$	$\phi \geq 5\text{m}$	法長の-2%			
		延長	L	-200			
	植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	法長	$\phi < 5\text{m}$	-200	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
		$\phi$	$\phi \geq 5\text{m}$	法長の-4%			
		厚さ t	t < 5cm	-10			
			t $\geq$ 5cm	-20			
	但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上。			施工面積500㎡につき1箇所以上測定。但し、面積500㎡以下200㎡以上の場合、1箇所以上測定、200㎡未満は管理データによることができる。□50mm検査孔により測定。			
	延長	L	-200	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
1-14-3 吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長	$\phi < 3\text{m}$	-50	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
		$\phi \geq 3\text{m}$	-100				
	厚さ t	t < 5cm	-10			施工面積500㎡につき1箇所以上測定。但し、面積500㎡以下200㎡以上の場合、1箇所以上測定、200㎡未満は管理データによることができる。□100mm検査孔により測定し4角の平均とする。	
		t $\geq$ 5cm	-20				
	但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上。						
	延長	L	-200			施工延長100mにつき1箇所以上測定。	
1-14-4 法枠工 (現場打枠工) (現場吹付法枠工)	法長	$\phi < 10\text{m}$	-100	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
		$\phi \geq 10\text{m}$	-200				
	幅	w	-30			枠延長200mにつき1箇所以上測定。	
	高さ	h	-30				
	吹付枠中心間隔	a	$\pm 100$				
	延長	L	-200			施工延長100mにつき1箇所以上測定。	
	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長	$\phi < 10\text{m}$			-100	施工延長100mにつき1箇所以上測定。
			$\phi \geq 10\text{m}$			-200	
延長		L	-200				
1-14-6 アンカー工	削孔深さ	$\phi$	設計値以上	10本につき1箇所以上測定。 (任意仮設は除く)			
	配置誤差	d	100				
	せん孔方向	$\theta$	$\pm 2.5\text{度}$				
但し、 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$							
第15節 擁壁工 共通	1-15-1 場所打擁壁工 コンクリート擁壁工	基準高	$\nabla$	$\pm 50$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
		厚さ	t	-20			
		裏込厚さ		-50			
		幅	$w_1, w_2$	-30			
		高さ	h	$< 3\text{m}$			-50
		h	h	$\geq 3\text{m}$			-100
		延長	L	-200			

(新) 出来形検査基準規格値(単位mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
第1章 一般施工 共通	1-15-2 プレキャスト擁壁工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。				
		延長 L	-200					
1-15-3	補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。				
		高さ h	$h < 3m$ $h \geq 3m$				-50 -100	
		鉛直度 $\Delta$	$\pm 0.03h$ かつ $\pm 300$ 以内					
		控え長さ $\Delta$	設計値以上					
		延長 L	-200					
1-15-4	井桁ブロック工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。				
		法長 h	$h < 3m$ $h \geq 3m$				-50 -100	
		厚さ $t_1, t_2, t_3$	-50					
		延長 $L_1, L_2$	-200					
第16節 浚渫工 共通	1-16-3 浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	基準高 $\nabla$	上限 下限	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 横断方向は、10m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。 ただし、各測定値の設計基準高以下であること。				
		電気船	200ps				+200	-800
			500ps				+200	-1000
			1000ps				+200	-1200
		ディゼル船	250ps				+200	-800
			420ps				+200	-1000
	600ps		+200	-1000				
	1350ps	+200	-1200					
	幅延	w	-200					
	延長 L	-200						
	浚渫船運転工 (グラブ船) (バックホウ浚渫船)	基準高 $\nabla$	上限 +200	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 横断方向は、10m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。 ただし、各測定値の設計基準高以下であること。				
		幅延	w				-200	
延長 L		-200						
第18節 床版工	1-18-2 床版工・横組工	基準高 $\nabla$	$\pm 20$	基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当り両端と中央部の3点、幅は1径間当たり2箇所、厚さは型枠設置時におおむね100㎡に1箇所以上測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)				
		幅 w	0~+30					
		厚さ t	-10~+20					
		鉄筋のかぶり	設計値以上					
		鉄筋の有効高さ	$\pm 10$ $\pm 20$ $\pm 10$ (有効高さがマイナスの場合)					
		鉄筋間隔						